現場の強い味方 〝介護用可変スライドボード〟

中部学院大学
人間福祉学部 人間福祉学科 教授
後藤 真澄 氏

腰痛が悩みの種

日本での介護は、移乗、入浴、おむつ交換など、人を人が抱えて行う作業がほとんどのため、介護職には腰痛が多く、健康障害によって離職する人が後を絶ちません。日本の様々な産業分野では機械化・機器の導入が進み、事業の効率化、職場環境の安全性向上、身体への負担軽減が図られています。しかし、介護分野では「利用者本位の介護」を求める傾向が強いため、未だ人力に頼っているのが現状です。最近では、介護現場にもリフトなどの福祉用具が導入されてきていますが、価格が高額なため積極的に導入されず、安全で快適な労働環境への見直しは遅れています。

国・県・企業・大学の連携で開発

中部学院ケア研究会では、安全で快適な労働環境整備のため、産学官連携により、介護現場で使いやすい福祉用具「介護用可変スライドボード（※）」を開発しました。このボードは、寝たきりの人でもボードを差し込み、その上を滑らせて移乗動作を行うことにより、簡単で安全に介護を行うことができます。一人での移乗も可能です。また、価格もリフトのように高額ではなく、経済的です。今はボードの安全性のテストも済み、モニター販売をしています。商品番号を取得すれば介護保険の指定を受けることができる用具ですので、商品化していただける企業を探しています。

安全で健康的な職場環境の実現

介護現場の大切な人材を健康障害で失うことの影響は計り知れません。介護従事者の安全と健康を守り、雇用促進につながる労働環境の整備を目指して、今後も新しい福祉機器の開発に携わりたいと思っています。

ごとう ますみ
日本福祉大学大学院社会福祉学専攻博士課程満期退学。平成6年、中部女子短期大学（現・中部学院大学）教授。趣味は染色工芸、水泳。愛知県西尾市出身。

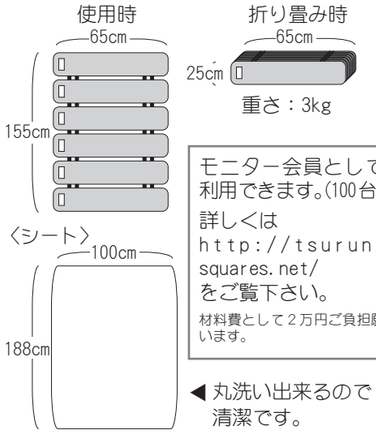
※寝たきりの人をリクライニング車椅子へ移乗する簡易なボード・補助シート（介護用可変スライドボード特許取得）。【特許番号】2008年特願2007-049566

シリーズ 産学連携

岐阜市近郊の研究者を中心に連携できる内容を紹介し、企業との橋渡しを目指しています。

介護用可変スライドボード

〈ボード〉



◀ 丸洗い出来るので清潔です。

モニター会員として利用できます。(100台)
詳しくは http://tsurun.squares.net/ をご覧下さい。
材料費として２万円ご負担願います。

使用方法

①リクライニング車椅子とベッドに橋渡しするようにボードとシートを置き、その半分を寝ている利用者の下に敷きます。

②移乗したい方向にシートを引き、利用者を移乗させます。

③移乗後はボードとシーツを引き出します。タオル等で引くときの半分の力で作業が出来るため、一人での移乗が可能となり作業効率がよくなります。

※操作方法は You Tube でも公開しています。

協力：短期大学部専攻科の皆さん

相談できる内容

- 高齢者ケアの方法とマネジメント
- 労働安全衛生（環境の改善）
- 福祉機器の開発と活用方法

研究内容・専門分野

- 高齢者ケアシステムとマネジメント
- 認知症ケアの方法
- 労働安全衛生など
- 皮膚と感性－癒しの科学

連携実績

- 介護用可変スライドボードの開発（岐阜県生活技術研究所等）
  ２００７年小野木科学技術振興財団シルバー努力賞受賞

取材

岐阜市役所商工観光部
産業振興課　新産業Ｇ
TEL：058-265-4141（代）
内線 6253

学校法人 岐阜済美学院
中部学院大学
人間福祉学部 人間福祉学科
TEL：0575-24-2211（代表）E-mail：mgto@chubu-gu.ac.jp